

秘

秘10423號

天正六年九月廿五日接獲 駐政務局 第一課

大正六年九月二十日

臺灣總督府警視總長湯地幸平

支那共支那人ニ関スル報告(第四十二報)

廣東ノ状況

孫ノ軍政府成立

民党ノ非常國會ハ九月五日軍政府組織ヲ  
議決シ孫逸仙ヲ大元帥ニ陸榮廷及唐  
雲南督軍ヲ元帥ニ選舉シ陸唐ニ向  
テ其ノ就任ヲ懇請シタルモ兩人ハ孫ト行  
動ヲ共ニ志セズ欲セス之ヲ拒絶セリ

第五門

孫ハ九月十日ヲ以テ軍政府ヲ組織シ大元帥  
就任式ヲ舉行セリ此日孫ハ新調ノ大元  
帥服ヲ着シ侍從武官王大偉外多數ノ  
海陸武官ヲ隨ハ軍艦舞鳳ニ坐策シ午  
後三時省城南門口ノ天字碼頭ニ到着  
官民多數ノ歡迎アリ滇軍三十三營ヲ以テ  
途中ヲ警護シ自動車ヲ駆テ非常國會  
會議場ニ入り喝采場裡ニ就任式ヲ終ル  
列席國會議員百五十二名式後各部  
長ノ選舉ヲ行ヒ財政唐紹儀外交王正  
廷陸軍李國燾交通胡漢民海軍程  
璧光内務孫洪伊ヲ選舉セシ

當夜大元帥就任祝賀提灯行列アリ長堤通ハ午後ノ人出多ク稀有ノ雅鬧ヲ極メタリ

孫ハ非常國會ニ次テ軍政府ヲ組織シ親ヲ大元帥ニ就任シタル元西南各省一毛之ヲ贊同セズ目下孤立無援ノ状態ナレハ不遠自滅ノ外ナルヘシト觀測セラレ

(四) 陳督軍ノ演説

九月八日陳督軍ハ同地各新聞社代表者ヲ招待シ席上左ノ演説ヲ為シタリ右ハ岑春煊ヨリ陸榮廷ニ建策シ陸ハ茲ニ陳督軍ヲシテ表セシメタル模様アリ

陳ハ新聞ニ右演説ノ掲載ヲ禁止セリト是レ民党ニ對シ公然批戰的態度ニ出ルヲ避ケ穩カニ督軍ノ意中ヲ表現シタルモノナラシム

陳ノ演説 余來粵當時恰モ督軍團兵ヲ起シ南來軍事紛々トシテ起リ未タ諸君ト相會スル暇アラザリシカ頃日廣東ノ軍事モ略ホ解決ヲ告ケ海軍ハ程總長ト商議シ廣東ニ海軍司令部ヲ置キ廣東ヨリ諸給回支出シ廣東ノ指揮下ニ陳セシメントシテ總長ハ禍建ノ人物ナレハ余ノ目的ハ必不達セラレヘシ

若支障アル場合ハ海軍ヲシテ隨時廣東  
ヲ去ラシムルモ可ナリ雲南軍ハ屢々余ノ  
命ヲ奉セズ却テ給餉ヲ迫リ加之韶州地  
方ニ於テ擅ニ所有税金ヲ徴収シ自己ノ有  
トナシツクアリ談軍此後尚廣東ニ留ルコト  
ヲ希ハハ廣東ヨリ給與ス可キモ否ラサレハ  
雲南ニ歸ラシムル可ナラム

當市言論界ハ廣東自主ニ對シテ頗ル異  
議多シ先ニ滑稽自主ト譏ル者サヘアリ  
タリ是レ自主ノ真意ヲ知ラサルモノナリ自主  
ノ二字極メテ巧妙ニシテ獨立ノ如ク大局ニ影  
響者スルモノニアラザレ可シ今日北方ニ對抗スル

三

最善ノ策ハ自主ニ如クハナシ若シ自主ヲ捨  
テ別ニ軍政府ヲ組織セシカ左ノ不利アリ  
南方ハ元々護法ヲ以テ標識トナシタルニ今  
約法以外ニ別ニ軍政府ヲ組織シ又總統  
存在スルニ拘ラズ別ニ元帥ヲ選舉スルハ  
稍常識アルモノハ皆其ノ不法ナルヲ知ル  
今日西南各省ノ勢力ハ頗ル散漫ニシテ  
一モ一致スル處ナシ故ニ北洋勢力ヲ一掃ス  
ルコト能ハサルハ言フ迄モナシ西南各省カ  
北方ニ反對スル勢ハ其ノ非法ニ因ルニ  
外ナラス若シ北方ニ於テ國會ヲ恢復シ適  
法ノ境ニ達シ時ニ於テハ自主政策ヲ執

リ居ラハ之ヲ取消スニ不可ナラサルニ軍政  
府ヲ組織セハ取消困難ナリ故ニ自主ハ  
轉圜易ク軍政府ハ暫圜難ニ鵲蚌  
相持スル時ハ漢人ヲシテ利ヲ得セシムルニ  
至ルヘシ之レ國家前途ノ為幸福ニアラハ  
政府ハ已ニ独壇ニ対シ宣戰ニ悞約國ハ  
之ニ非常ナル援助ヲ與ヘツ、アリ從令軍  
政府ヲ建設スルニ外交上ノ承諾ヲ得ル  
事能ハス自主ハ斯ル問題起ラス  
民黨軍政府成立スルト雖上述ノ通已ニ  
賛成セラルヲ以テ軍餉ハ援助スルコト能  
ハス其ノ行フ方之政策ニハ我ハ干涉セス

四

要スルニ彼等如何ナル舉動アルモ之ヲ放  
任スヘシ其ノ自滅ニ歸スルコト明カナリ將  
來彼等失敗スルモ余ノ存スル限リハ當  
我保護ヲシテ安全ニ出境セシム可シ今  
ハ傍觀ノ態度ヲ執ルノミ

馮國璋ト聯絡シ段祺瑞ヲ除クヲ第  
一ノ要義トス蓋シ馮ト聯絡シテ段  
ヲ除クニ左ノ利アリ

馮國璋ハ現ニ總統繼任ト稱セス仍ホ  
代理ト稱シ居リ之レ約法及總統  
選舉法ニ依ルモ亦法ニ違背スルモノナ  
シ之レ保護法ノ宗旨ニ反セス

馮、段ヲ共ニ敵トシテ北洋勢力ヲ一掃ス  
ルコト能ハサルハ以テ馮ト聯絡ス  
ル時ハ援湘ノ目的達シ易シ湖南近  
隣各省ハ等シク馮系ニ屬スルカ故ナリ  
又馮ト聯絡ヲ保ケ居ル時ハ將來終  
局ノ時ニ於テ轉圜ノ餘地アリ  
國會議員ノ廣東ニ來ルモノ百五十餘  
名アルモ区々ノ數元ヨリ會議トナラス其  
ノ入費多額ヲ要シ財政困難ノ今日  
之ニ對シテ將來如何ニスヘキカ更ニ問題  
トナラス云々  
又民黨ニ於テ余ノ政策ニ反對スル場合ハ

五

余ハ廣西軍全部ヲ率ヒテ廣西ニ歸  
リ之ヨリ廣東問題ニ關係セス云々

二、汕頭ノ狀況

(1) 海關監督ノ交代

従来汕頭潮海關監督兼汕頭交渉員ト  
シテ陳萃岳昨年来ヨリ就職セリ北京政  
府ハ八月十日付大統領令ヲ以テ鄭浩ヲ  
潮海關監督ニ任命シ更ニ同日付同  
令ニ依リ潮循道尹黃存覺ヲシテ汕頭  
交渉員ヲ兼任セシムル旨公布アリタルニ鄭  
ハ未タ着任セス又黃道尹ハ喪中ニテ一切  
ノ公務ヲ曠廢シ居ル爲西事務ハ依然

前任陳華岳ニ依リ處理セラレツアリ  
ニ廣東督軍陳炯明ハ八月二十六日付督  
軍署委任令ヲ以テ督軍秘書四維誠  
ヲ潮海關監督兼汕頭交涉員ニ任命  
セリ督軍ノ右措置ハ所謂兩廣自主ヲ理  
由トシ北京政府ノ任命ヲ無視シ自己ノ腹  
心者ヲ勝手ニ任命セルモノニテ而カモ督軍ノ此  
舉ヲ出テタルハ潮海關監督ノ管理ニ在ル  
ニ上箇所ノ常關收入年額約二十五萬元ヲ  
廣東省ノ收入ニ移スコト及同監督内ニ在ル  
押收獨船四隻ヲ共ニ廣東省ノ所有ニ入  
レトスル魏騰ニ出テタルモノナリト傳ヘラル而シ

六

テ陳督軍ノ任命セル羅誠ハ九月四日着  
任前任陳華岳ニ事務ヲ引継ヲ逼レリ  
又之レト相前後ニテ北京政府ノ任命セル鄭  
浩モ遠ラズ汕頭ニ着任スヘキ報ヲ茲ニ於  
テ陳ハ四維誠ニ事務引継ノ可否ヲ付再  
ニ北京政府ニ請訓セルモ何等指令ヲ得  
ズ依テ止ムナク九月七日羅ニ全部ノ事務  
ヲ引継タリトモ押收獨船四隻ハ引継ノ  
前日即チ九月六日付ヲ以テ支那大連公司  
代表者三菱社員太倉各司ニ引渡ノ手  
續ヲ以テ紛議紛辟ケタリ  
羅誠ハ右引継ヲ受ケルト共ニ九月八日付公

文ヲ以テ汕頭駐在各国領事ニ接任ヲ通告  
シ同時ニ九月十日着任挨拶ノ為メ訪問  
スヘキ旨通告ヲ發シタルモ四維誠ノ任命ハ  
前述ノ如ク北京政府ノ意ニ反スルモノト認  
メラレ目下西廣地方ハ假ハ自主ヲ宣言シア  
リト雖均シク北京政府ノ治下ニ在ルモノト認  
ムル外ナキ結果四維ノ任命ハ正當ト見做  
ス能ハス各国領事ハ打合ノ上右接任ノ公  
文ハ之ヲ受クルノミニ止メ田若ヲ奈セサルヲ妥  
當トシ又着任挨拶ノタメ公ニ來訪スルコト  
ハ拒絕スルヲ至當トスルモ目下同地ニ於テハ地  
方官タル道尹ハ全然其ノ職務曠廢ノ状

七

態アリ各種ノ交渉案件ハ是非汕頭交  
渉員ト折衝セサルヘカラサル状態ナルニ  
此際來訪ヲ断然拒絕スルヲ不得策ナリ  
トシ各領事トモ個人トシテ接見スル旨ヲ  
明ニシ面會セリト我領事館ニ九月十日  
來訪セリト  
多少政界ノ事情ニ通セル支那人召ニハ廣  
東督軍陳炯明ハ強ント北方派ト目サレ  
從テ督軍ノ任命セル羅誠ハ追テ北京政  
府ノ承認スル處トナルヘシト唱ヘ居レリ  
北京政府ノ任命セザル鄭浩モ亦己ニ着任シ

羅誠ニ對シ事務引継ヲ逼リ居リ從  
テ早晚紛擾ヲ惹起スヘシト新支紙ハ唱  
ヘ居ルニ未タ何等ノ事ナシ  
四) 作業船遭難

先頃碓石支那官憲ヨリ基隆遭難船員  
漂着救護ノ事送還ストノ電報其ノ事助ニ達  
セリ汕頭領事館ニ於テ相當救助ノ準備  
ヲナシ其ノ跡着ヲ待ケハアリシカ九月十三日  
午後五時同地ニ跡着シタルヲ以テ在留邦人ヲ  
シテ救助ヲ興ヘ翌十四日同地出帆ノ城津丸  
ニテ送還セシメタリ遭難者ハ沖繩縣島尻  
郡糸満町金城徳三十年外十三名ナリ其

ノ遭難状況左ノ如シ

同人等ハ基隆漁業合名會社第一台灣丸  
ニ乗込約四十日前ヨリ沈没船引揚ノ為  
ヲラタス島ニ至リ作業中暴風雨ニ出會  
シ乗組員三十余名ノ中船長以下十余名  
ハ船中ニ復泊リシ他ノ残部十八名ハ同島  
ニ上陸シタリ斯ラスル中同船ハ激浪ノ為メ  
緊綱切レ遂ニ吹キ流サレテ行衛ノ不味ト  
ナリタリ同島ニ上陸シタル十八名ハ其ノ後約  
二十日召留リタルニ食料次第ニ缺乏スルニ  
テラス同僚上原太郎上原次郎富木順盛  
須田利助ノ四名相踵ニテ病死スルニ殊リ



茲ニ残余ノ十四名ハ死ヲ決シ作業ニ使用  
シテリシ中三尺長江船ニ乗込ミ南京  
袋ヲ以テ帆トナシ同島ヲ離レニ書一夜ヲ  
費シ幸チ九月六日碇石ニ漂着支那  
官憲ヨリ救助サレタリ中一名ハ碇石上陸  
後死亡シ十三名ハ無事汕頭ニ到着シタ  
リト

三 厦門ノ状況

秋津州ノ入港

我軍艦秋津州ハ九月十四日午前七時  
厦門ニ入港セリ日本領事ヲ始メ支那官  
憲ノ迎接ノ禮アリ日本留民ハ翌十五日  
午後六時ヨリ士官以上ヲ大和俱樂部ニ  
招待シ歓迎ノ宴ヲ張リ下士以下ニ  
ハ酒肴料ヲ贈ルナリト

九